

製品名: HDAC5/9 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11949**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	121kDa

抗原情報

遺伝子名	HDAC5/HDAC9 HDAC5; KIAA0600; Histone deacetylase 5; HD5; Antigen NY-CO-9; HDAC9; HDAC7; HDAC7B;
別名	HDRP; KIAA0744; MITR; Histone deacetylase 9; HD9; Histone deacetylase 7B; HD7; HD7b; Histone deacetylase-related protein; MEF2-interacting transcription rep
遺伝子 ID	10014/9734
SwissProt ID	Q9UQL6/Q9UKV0
免疫原	抗血清はヒト HDAC5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 225-274

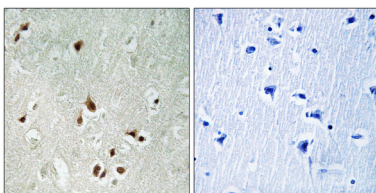
背景

ヒストンは転写制御、細胞周期の進行、そして発生過程において重要な役割を果たします。ヒストンのアセチル化/脱アセチル化は染色体構造を変化させ、転写因子の DNA へのアクセスに影響を与えます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、クラス II ヒストン脱アセチル化酵素/acuc/alpha ファミリーに属します。ヒストン脱アセチル化酵素活性を有し、プロモーターに連結された状態で転写を抑制します。HDAC3 ファミリーのメンバーとのみ共免疫沈降し、多重複合体タンパク質を形成する可能性があります。また、筋細胞エンハンサー因子 2 (MEF2) タンパク質とも相互作用し、MEF2 依存性遺伝子の発現抑制を引き起こします。この遺伝子は大腸がんとの関連が示唆されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ヒストンの N(6)-アセチルリジン残基を加水分解し、脱アセチル化ヒストンを生成する。 ,ドメイン: 核外輸送配列は、核と細胞質間の輸送を媒介する。 ,機能: コアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) の N 末端リジン残基の脱アセチル化を担う。ヒストンの脱アセチル化は、エピジェネティック抑制の標識となり、転写調節、細胞周期の進行、発達過程において重要な役割を果たしている。ヒストン脱アセチル化酵素は、巨大な多タンパク質複合体の形成を介して作用する。筋細胞エンハンサー MEF2C の転写を抑制することで、筋成熟に関与する。筋分化の過程で細胞質に移行し、心筋細胞エンハンサー因子の発現を可能にする。 ,PTM:CaMK によって Ser-259 と Ser-498 がリン酸化される。このリン酸化は細胞質への輸送に必要である。 ,PTM:ユビキチン化される。しかし、ポリユビキチン化は分解を招かない。 ,類似性:ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属します。タイプ 2 サブファミリー。 ,細胞内局在:核と細胞質の間を輸送されます。筋細胞では、心筋分化の過程で細胞質に移行します。細胞質への輸送は、14-3-3 シャペロンタンパク質との相互作用に依存し、CaMK による Ser-259 と Ser-498 のリン酸化によるものです。 , サブユニット :AHRR と相互作用します (類似性による) 。 BCOR、HDAC7、HDAC9、CTBP1、MEF2C、NCOR2、NRIP1、PHB2、および 14-3-3 シャペロンタンパク質と相互作用する。KDM5B とも相互作用する。 ,組織特異性: 普遍的。 ,

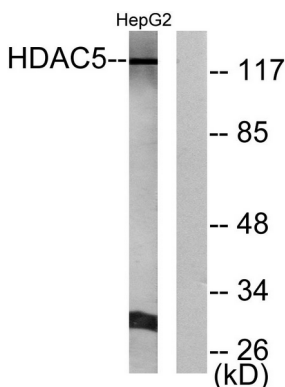
研究分野

タンパク質アセチル化

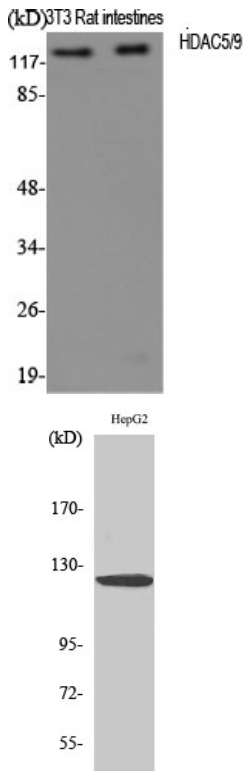
画像データ



HDAC5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。

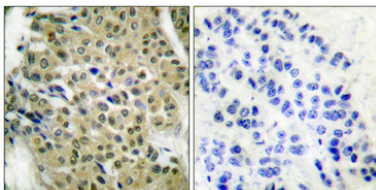


HDAC5 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。

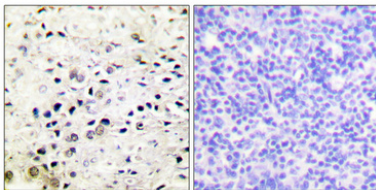


1: 1000 希釈の HDAC5/9 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

1: 1000 希釈の HDAC5/9 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト前立腺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。